

DIALOG(R) File 347:JAPIO
(c) 1999 JPO & JAPIO. All rts. reserv.

00404847

MEDIUM FOR THERMO TRANSFER RECORDING

PUB. NO.: 54-056847 [JP 54056847 A]
PUBLISHED: May 08, 1979 (19790508)
INVENTOR(s): HARUTA MASAHIRO
NISHIMURA YUKIO
TAKATORI YASUSHI
NISHIDE KATSUHIKO
APPLICANT(s): CANON INC [000100] (A Japanese Company or Corporation), JP
(Japan)
APPL. NO.: 52-123349 [JP 77123349]
FILED: October 14, 1977 (19771014)
INTL CLASS: [2] B41M-005/26
JAPIO CLASS: 29.1 (PRECISION INSTRUMENTS -- Photography & Cinematography);
14.2 (ORGANIC CHEMISTRY -- High Polymer Molecular Compounds);
29.4 (PRECISION INSTRUMENTS -- Business Machines)
JAPIO KEYWORD: R002 (LASERS); R042 (CHEMISTRY -- Hydrophilic Plastics); R125
(CHEMISTRY -- Polycarbonate Resins)
JOURNAL: Section: E, Section No. 121, Vol. 03, No. 78, Pg. 110, July
05, 1979 (19790705)

ABSTRACT

PURPOSE: To enable good quality recording to be performed with good transfer efficiency and provide the medium having durability suitable for continuous use by holding solid ink showing thermoplasticity in a multiplicity of through-holes provided in the carrier.

CONSTITUTION: A substrate of about 60 to 400 mesh having cylindrical form pores of preferably less than about 100. μ . in sectional diameter and having heat resistance and flexibility is formed in sleeve form or endless belt form. The solid ink which is composed of the composition containing waxlike substance or thermoplastic resin and coloring agents and exhibits thermoplasticity within a temperature range of 40 to 200 deg.C, preferably 40 to 160 deg.C is filled in the pores of the substrate while it is in a softened or molten state. This thermo transfer recording medium 3 and the medium to be transferred 4 are superposed and heat information 5 such as laser light source is applied from the medium 3 side, then the heat-sensitive solid ink 6 is transferred to the positions corresponding to the information 5

⑪公開特許公報(A)

昭54-56847

⑫Int. Cl.²
B 41 M 5/26識別記号 ⑬日本分類
103 K 3
116 F 3⑭内整理番号
(509-2H)⑮公開 昭和54年(1979)5月8日
発明の数 1
審査請求 未請求

(全 6 頁)

50熱転写記録用媒体

エンハイムC-407

⑯特 願 昭52-123349

⑯発明者 廣取靖

町田市本町田2424-1 町田木

⑯出 願 昭52(1977)10月14日

曾住宅ホ-12-404

⑯発明者 春田昌宏

西出勝彦

船橋市宮本4-18-8, パール
マンション203

横浜市旭区中沢町56-516

同 西村征生

⑯出願人 キヤノン株式会社

相模原市鶴の森350-2, リリ

東京都大田区下丸子3-30-2

⑯代理人 弁理士 丸島儀一

明細書

1. 発明の名称

熱転写記録用媒体

何れか一方、又は両方と色剤を含む組成物から成る特許請求の範囲第1項記載の熱転写記録用媒体。

2. 特許請求の範囲

- (1) 多数の貫通孔を有する担体と前記貫通孔中に保持された熱塑性を示す圆形インクとから成ることを特徴とする熱転写記録用媒体。
- (2) 貫通孔が円筒形をなす特許請求の範囲第1項記載の熱転写記録用媒体。
- (3) 担体が回転体形状或いは無端帯状をなす特許請求の範囲第1項記載の熱転写記録用媒体。
- (4) 担体が耐熱性材料により構成されている特許請求の範囲第1項記載の熱転写記録用媒体。
- (5) 担体が可視性を示す特許請求の範囲第1項記載の熱転写記録用媒体。
- (6) 圆形インクが、ろう様物質と熱可塑性樹脂の

(7) 圆形インクが、40°C 乃至 200°C の温度範囲で熱塑性を示すものである特許請求の範囲第1項記載の熱転写記録用媒体。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、熱転写記録方式において用いる転写媒体に関する。更に詳しくは、熱転写記録用媒体構成の改良に関する。多種多様の記録方式が広く実用に供されている現在、中でもカーハン・プロセスを利用した、所謂、ブレーン・ペーパー複写機が市場において急激な成長を遂げている事実が示すように、消耗品たる記録用紙として、特殊紙を使用せず、普通紙に転写記録をなす為の記録方式が望まれるのは、用紙コスト、操作性、記録の

フィーリング、公害衛生等々の観点よりして、時代の趨勢であると言える。斯かる記録方式にあって、例えば、電子写真方式、静电印刷方式を利用した装置は複雑な機構を必要とし、大型化、又、高コスト化するのを避け得ないと云う欠点があり、例えば卓上電算機に組み込む為の簡易なプリンタ等として応用するには限界がある。他方、装置的には、比較的簡易なものとして、インクリボンの上から活字プラテン、ハンマー、クイアードット等で衝撃を与えて、用紙に印字する、所謂、インパクト方式の記録装置が汎用されているのも事実であるが、これ等に共通する欠点は、印字記録時の騒音が大きい事、メカ的な機動部が多い為、印字スピードが上げられない上、部品の摩耗等による故障が多く、メンテナンスが煩わしい事、等である。中では比較的欠点が少ないとされている

特開昭54-56847(2)
クイアードットインパクト方式の装置とともに、大きな電磁石を多段内蔵する為に、ヘッド部をインパクト化する事が困難を上、電磁石を、作動させる為の、大電力を消費するという問題点を有する。何れにしろ、印字頻度が高い場合にはインクリボンを頻繁に交換するわざらわしさがあり、又、反復使用のできる厚手のテープを使用すると、印字品質が著しく劣悪化するという不利がある。又、一方では斯かるインパクト方式の欠点を除く、所謂、熱転写記録方式も幾つか提案されている。その一例が特公昭49-26245号公報に開示されている。斯かる技術思想を要約すると、略々、常温においては固相にあり、加熱によって可逆的に液相になるか流動性を持つ如き印刷用熱感インクを記録紙に印字する印刷機であり、所定の文字又は图形を発生する如く構成された印刷要素が前記熱感

インクを前記所定の文字又は图形の形に局部的に加熱して流動性を有し、前記記録紙に印字する機構を有する事を特徴とする熱感インクを印字する印刷機であると理解され、確かに特殊紙を用いない簡易型の熱転写式印刷機を提供した点、往々に倣するものではあるが、斯かる記録方式においてはインクキャリアを介して熱像が付与される為、インク槽への熱伝達を良くして鮮明で濃い、即ち良品質の記録をなす為には、インクキャリアへのインクの蓄積の厚みは極めて薄くする事、更にインクキャリアそれ自体が非常に薄い膜でなければならぬ事等、かなり厳しい条件の制約を受けるものもあり、その点不利である。

又、インクキャリアが非常に薄い膜である場合には、その機械的強度が低く、使用耐久性に乏しいと云う不利もある。

本発明においては斯かる実情に鑑み、上述の如き熱転写記録方式における転写媒体の改良をなすものであり、第1に、転写媒体良く、且つ、記録をなすことのできる熱転写記録用媒体を提供することを目的とする。第2には、本発明に通じた耐久性のある熱転写記録用媒体を提供することも目的である。上記の目的を達成する本発明とは、要するに、多數の貫通孔を有する固体と前記貫通孔中に保持された熱塑性を示す樹脂、シートから成ることを特徴とする熱転写記録用媒体である。以下、本発明をより明確ならしめるため、図面を参照しつつ詳細に説明する。

第1図に、本発明熱転写記録用媒体の一構成例を示す。第1図(a)はその一部を示す平面図、第1図(b)は同側断面図である。図において、1はステンレス、鋼、アルミニウム等の金属板、或いは

ナイロン、テフロン、テフロン、アクリル樹脂、ポリカーボキート、ポリイミド、フェノール樹脂等合成樹脂フィルムからなる基板であり、中でも耐熱性及び可塑性のあるものが好適である。又その厚さは約10μから数μのもの迄使用可能である。上記基板1には、円筒状の貫通孔2が多数穿設されており、斯かる各空孔2中には、加熱により融軟化又は溶解する常温においては内相にある感熱图形インクが充填されている。第1図に示した貫通孔の断面形状は円形であるが、本発明においては円形に限らず、矩形状、橢円形状、モザイク状、又はこれ等の組み合わせによる形状であつても良い。本発明に係る転写記録においては、前記貫通孔の各々が形成されるべき画像の各部に相当する。中でも、使用上好適な貫通孔は、断面径約100μ以下の円筒状空孔である。

第1図に示した感熱転写記録用媒体の鉛形インクのキャリアは基板に貫通孔を多数穿設したものであるが、その他、メッシュ状媒体を使用することもできる。例えば、ステンレススチールの細網或いは耐熱性のある合成繊維等を織ることによる可塑性の網であり、そのメッシュ値は90から400メッシュ程度である。このような網を使用する場合、平織、あや織、又はしゆす織による網の何れでも良く、更に、それ等の網を加圧変形させて使用に供しても良い。

以上、説明した鉛形インクのキャリア(媒体)は第2図に示す如く、スリーブ状に構成しても良く、又、第3図に示す如く無端帯状に構成しても良い。その時、前記キャリアの素材が可塑性を示すことは取扱い上好都合である。本発明で使用する感熱图形インクは染料、顔料等の色剤と、ろう材物質

の单独或いは更に熱可塑性樹脂とから組成されたものである。ろう材物質としては蜜ロウや鉛物油もしくは植物油等の油脂類が使用できるが、例えば、マイクロクリスチルワックス、カルナウバワックス、水素化ひまし油ワックス等のワックス類、ミリスチン酸、ステアリン酸、パルミチン酸、ベヘン酸の如き、高級脂肪酸とその金属塩、その他、ステアリン酸モノグリセロール、パラフィン、ポリエチレンジリコール、蜂蠍、ベンズアミド、アセトアミドベンズトリアゾール、フェナセチル、ジメドンビスフェノールA等が更に具体的に挙げられる。熱可塑性樹脂としては、ポリ塩化ビニル、ポリ塩化ビニリデン、ポリビニルホルマール、ポリビニルブチラール、ポリビニルアルコール、ポリビニルアセタール、ポリカーボキート、ポリスチレン、クフロン樹脂、塩化ビニルとアクリ

ル酸エステルとの共重合体等が使用できる。色剤としては染料、顔料の他、加熱された後着色する成分を使用することができる。例えば、長鎖脂肪酸鉄塩(たとえばステアリン酸第2鉄、ミリスチン酸第2鉄)と、フェノール類(タニン酸、没食子酸、カクナム酸アンモニウム)又、有機貴金属塩(ベヘン酸銀、ステアリン酸銀)と芳香族有機還元剤(プロトカテキン酸、ハイドロキノン)、又、クリスタルバイオレットラクトン等のラクトン類とフェノール類(ビスフェノールA、フェノール樹脂)又、レゾルシンとニトロ化合物、又、テトラゾリウム塩と還元剤と塩基などを例とする多成分系感熱発色剤、染料誘導体などのアミン発生剤とpH指示薬又、アミン発生剤とジアゾ化合物とカプラー、又、置換ベンゼンジアゼニウムクロモボレートと多価フェノ

ールとニトロソ化合物、アミン発生剤とフッ化黒鉛など、ある温度になると熱分解が急速におき、その熱分解物と発色反応をおこす物質の組み合わせによる熱分解反応成分系、インドール誘導体ピロロン誘導体、置換アミノジオキサンの重金属塩など単独で熱により発色する単独発色系成分などがあげられる。

以上の成分が熱時混練され、それが軟化或いは溶融状態にある間に、前述のキャリア中の空孔中に磨布、浸漬等の手法により充填される。斯かる图形インクは、加熱源としてサーマル・ヘッドを使用する際、ヘッドの加熱に充分応答できるよう約40°C乃至200°C、特に好ましくは約60°C乃至160°Cの温度範囲で熱塑性を示すようすめ、その組成比を規定しておくことが望ましい。

本発明に係る熱転写記録に際しては、情報源とし

ての熱が、图形インクに対して直接印加される為情報伝達の効率が良く、图形インクの転写を確実に行なうことができる。又それに要する熱量も従来の方式に較べて少なくてすみ、経済的である。更に本発明の熱転写記録用媒体においては、熱変化質、変形の恐れが少なく、使用耐久性に富むものであり連続使用に適している。

ここで、本発明熱転写記録用媒体の適用例を図面に添つて説明する。

第4図は熱情報源として輻射線を利用して転写記録を行なう方法を示しており、先に図示した如き熱転写記録用媒体3と被転写媒体4としての紙、樹脂フィルム等とを重ね合わせ、熱転写記録用媒体3側から熱情報5を印加し、情報5に対応する箇所に感熱图形インク6の転写をなす方法を略面断面図により示した。なお、熱情報5を与える手

段又は機器としては、キセノン、ハロゲン等を例とするフラッシュ光源、タンクステンランプ等を例とする赤外線ランプ、炭酸ガス、半導体、アルゴン等を例とするレーザー光源等を挙げることができが、中でも望ましくは熱バーン以外の場所に“かぶり”を生じさせぬうちに、所定のバーンにのみ高強度の輻射線を照射出来るものが良い。その点でフラッシュ光源、レーザー光源等が望ましいものと言える。

又、熱転写記録用媒体3と被転写媒体4とは図示の如く多少の距離を置いて配されてもよく、密着した状態で配されてもよい。

第5図により又別の方法を示す。斯かる方法においては、先ず、電源部7より発生した信号が図示していない電気回路を経て熱ヘッド8に伝わり、ここで熱ヘッド8に含まれる抵抗体が発熱し、そ

の接触箇所にある感熱图形インク6が第4図示例の場合と同様に被転写媒体4上に転写される。本図示例において使用する熱ヘッド8としては、蒸着法により抵抗体を構成するいわゆる熱膜ヘッド、スクリーン印刷等の方法により抵抗体を構成する厚膜ヘッド、半導体作成手法により抵抗体を構成する半導体ヘッド等がある。

本発明においては、感熱图形インクが転写により一部欠如した熱転写記録用媒体の空孔に再度、熱化或いは溶融状態にある感熱樹脂・シカを充填し更に固化したものを再度使用或いは連続使用に供することもできる。

更に実施例を挙げて本発明を詳述する。

実施例-1

直径50μの円形空孔を100μピッチでスクリーン状にエッティングされたステンレスメッシュを用

い、これに下記組成の分散液を塗布し乾燥して転写記録用媒体を作成した。

アシッドアリザリングラック	0.8 5.0 g
アクリル樹脂 (東亜合成社製SKY-1, 50%ルエン溶液)	 1.0 g
メチルエチルケトン	 4.0 g

この媒体と上質紙を重ねて第1図のようバーン状にキセノンフラッシュ光を、理想科学社製のゼノファックス-150を用いて1/1000秒間照射した所、光の当つた所のメッシュ孔中のインクが紙の方へ転写され、その部分のメッシュ孔は空となつた。紙に転写されたインクはそのまま紙の面に固着されドットパターンを形成した。

実施例-2

幅径30μ, 100μピッチのステンレスプレス金網のメッシュ空孔に下記組成の染料とバイオレットの溶液をうめこみ、乾燥して転写用媒体を作成し

この転写用媒体と紙を重ねて転写用媒体側からスポット径50μ, 出力100mWのYAGレーザーを10μ/secのスピードで走査した所、レーザーの照射された所の空孔中のカーボンプラックは、紙に転写され固着された。一方、該転写用媒体はレーザー光の当つた所は空孔となつていて、この画像状に空孔を有する転写用媒体と、新たに用意した紙とを重ねて転写用媒体側から孔板印刷用インク、ローラー等で全面に付与した所、画像状に空孔となつた所から紙にインクがしみ込んで孔板印刷がなされた。

実施例-3

実施例-2と同様にして作成された転写用媒体をエンドレスベルト状に加工し、アルゴンイオンレーザー(出力500mW, スポット径50μ)で走査し、紙へ染料を転写した。次いで、実施例-2と

た。

カーボンプラック 2.0 g
カバナウバウクス/蜜ロウ 8/2g
トルエン 5.0 g

この転写用媒体と上質紙を重ねて、第4図のよう転写用媒体側からスポット径50μ, 出力500mWのアルゴンイオンレーザーを1/1000秒間照射した所、転写用媒体の空孔中にうめこまれていたカーボンとワックスの混合物が紙の方に転写され固着された。

実施例-4

実施例-1と同様にメッシュの空孔中に下記分散液をうめこみ乾燥して、転写用媒体を得た。

カーボンプラック 5.0 g
ポリビニルチャーレル(10%) 5.0 g
エタノール 5.0 g

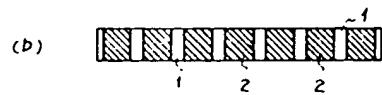
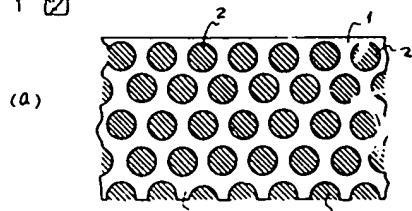
同様の染料とバイオレットからなる染料溶液を転写用媒体に付与して、転写後の空孔となつた部分に再度染料をうめこみ、乾燥して元の転写用媒体に再生し、また転写記録を行なう工程をくり返して記録を連続的に行なつた所、良好な結果を得た。

4.断面の簡単な説明

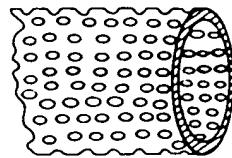
第1図に及びて、第2図、第3図は夫々本発明熱転写記録用媒体の構成例を説明する略断面図であり、第4図及び第5図は本発明熱転写記録用媒体の使用例を説明するための略断面図である。図において、

1 基板、2 直通空孔、3 熱転写媒体、4 熱転写記録用媒体、5 熱転写媒体、6 热熱图形インク、
出願人 キヤノン株式会社
代理人 丸島謙吉

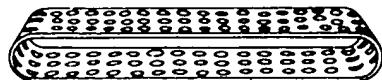
第1図



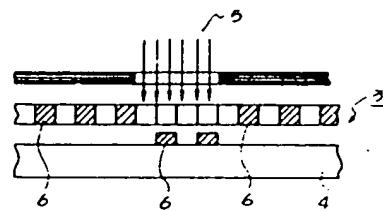
第2図



第3図



第4図



第5図

